

## バルフの〈ボヘミアの少女〉とシュトラウス父子の〈ジプシー娘のカドリーユ〉： 19世紀中頃の音楽の流通と伝播に関する一考察

鍵山 由美

ヨハン・シュトラウス2世 Johann Strauss (Sohn) (1825-99) は、1844年10月15日に父の反対を押し切って指揮者デビューを果たす。当時、父ヨハン・シュトラウス1世 Johann Strauss (Vater) (1804-49) は妻子を捨て、愛人と暮らしていた。2世のデビュー以来、父子の関係は芳しくなかったが、1846～47年に2人は同じオペラに基づく楽曲3曲をそれぞれ作曲した。これらはいずれもカドリーユであることから、カドリーユ対決といわれる。本稿では最初の対決作品〈ジプシー娘のカドリーユ *Zigeunerin-Quadrille*〉を取り上げ、作曲の経緯ならびに両者の様式を考察する。

### 1 バルフによる〈ボヘミアの少女〉のウィーン初演

〈ジプシー娘のカドリーユ〉の原曲は、アイルランドの作曲家バルフ Michael William Balfe (1808-70) による英語オペラ〈ボヘミアの少女 *The Bohemian Girl*〉(初演: 1843年11月27日ロンドンのドルリーレーン劇場) である<sup>1)</sup>。しかし、ウィーンで初めて紹介されたバルフのオペラは上記作品ではなく、1844年12月14日にヨーゼフシュタット劇場で上演された *Die vier Haimonskinder* (原題: *Les quatre fils Aymon*、初演: 1844年7月29日パリのオペラ・コミック座) であった。このオペラ・コミック作品は1845年になってもウィーンで人気を博し、9月24日からアン・デア・ウィーン劇場で、3日後の9月27日からはケルンテン協の宮廷劇場でも *Die vier Haimons-Söhne* の題で上演が行われた。シュトラウス1世は、この作品に基づくカドリーユ *Quadrille über beliebte Motive aus der Oper Die vier Haimonskinder* op. 169 を作曲し、これも大成功を収めた<sup>2)</sup>。

次作にも仏語オペラのオペラ・コミック *Le puits d'amour* (初演: 1843年4月20日パリのオペラ・コミック座) が取り上げられ、*Der Liebesbrunnen* の題名のもと1845年11月4日にアン・デア・ウィーン劇場で上演された。このオペラと関連してシュトラウス2世がカドリーユ *Quadrille nach: Liebesbrunnen* op. 10 を作曲した<sup>3)</sup>。

以上の2作を受けて〈ボヘミアの少女〉がウィーンに登場する下地が作られた。このオペラは1846年7月22日にアン・デア・ウィーン劇場で〈ジプシー娘 *Die Zigeunerin*〉としてドイツ語上演された (BAUER 1955: 112)。しかしながら、現存する初演関連データには混乱がみられる。Loewenberg によれば、最初の台本は J.P.T. Lyser による独訳とされる (LOEWENBERG 1978: 834) が、根拠は不明である<sup>4)</sup>。

*Wiener Zeitschrift für Kunst, Literatur, Theater und Mode* 紙 (1816-48年発行) に掲

載された音楽関連記事を目録化した HÖSLINGER 1980 は、バルフの〈ジプシー娘〉に関連する 4 つの記事を挙げている (HÖSLINGER 1980: 10)。(1) 1845 年第 198 号: *Die Zigeunermädchen* の題名のみを記載; (2) 1845 年第 149 号: アン・デア・ウィーン劇場と Wildauer 嬢、Staudigl 氏の名前を記載; (3) 1846 年第 196 号: アン・デア・ウィーン劇場で作曲家自身が指揮と記載; (4) 1848 年第 65 号: アン・デア・ウィーン劇場と Treffz 嬢、Staudigl 氏の名前を記載。HÖSLINGER 1980 は新聞の号数だけを記しているため、発行日はわからない。(2) は周知のウィーン初演 (1846 年 7 月 22 日の Wildauer 嬢と Staudigl 氏による公演) の前年にあたるが、オーストリア国立図書館に所蔵される同紙を確認した結果、1845 年第 149 号 (7 月 28 日月曜) にはバルフ関連の記事は掲載されていないことが判明した<sup>5)</sup>。同図書館には 1846 年第 130 号までしか保管されおらず、筆者はそれ以降の記事を確認できなかった。しかし、この新聞が毎週月曜、火曜、木曜、金曜、土曜の週 5 回発行された事実から鑑みて、この記事は 1845 年ではなく 1846 年の第 149 号で 7 月 27 日月曜に発行されたと推測される。それはちょうど〈ジプシー娘〉のウィーン初演から 5 日後にあたることから、(2) の記事は 1845 年ではなく、1846 年のものと考えられる。

また、Basil Walsh のウェブサイト“Michael W. Balfe: Composer of *The Bohemian Girl* and other operas”には、バルフが指揮するアン・デア・ウィーン劇場での公演ポスターが公開されている。残念なことに、ポスターの左半分しか写っていないため、肝心の日付が「30 日水曜日」の部分しか見えない。HÖSLINGER 1980 の (3) の記事 (1846 年第 196 号) を 10 月 1 日木曜発行と推定するならば、9 月 30 日は水曜となる。そうであれば、掲載ポスターは 1846 年のものと考えるのが妥当であろう<sup>6)</sup>。このポスターには、メケッティ社の楽譜についての記載がある点も見逃せない。

メケッティ社による楽譜 *Die Zigeunerin* は、すでに 1845 年 10 月 22 日付の *Wiener Zeitung* 紙第 292 号に広告が出された<sup>7)</sup>。メケッティはオペラを 21 曲のナンバーに分割してそれぞれのヴォーカル・スコアを販売した (WEINMANN 1966: 111)。ここにレチタティーヴォは含まれない。上述のポスターには、メケッティ社の楽譜が Joseph Staudigl の詞によることが示されている<sup>8)</sup>。つまり、1846 年にはすでに Staudigl の詞による楽譜が流布していた訳で、Lyser の名のみを掲げる BAUER 1955 と LOEWENBERG 1978 の記述には疑問が残る<sup>9)</sup>。ともあれ、オペラのウィーン初演の 9 ヶ月前にすでに楽譜の販売が始まり、誰もが楽譜を入手することができた訳である。

## 2 シュトラウス父子による〈ジプシー娘のカドリーユ〉の作曲・出版経緯

当時の人々の関心は、オペラの初演後いかに時を置かずに関連楽曲が発表されるかに置かれた。1846 年 7 月 23 日付の *Der Sammler* 紙は、シュトラウス 2 世が〈ジプシー娘の

カドリーユ)を作曲中と伝え、8月1日号に演奏評を掲載した(MAILER 1999: 360-361)。ここから推測するに、2世のカドリーユは7月23~31日に初演された(SEV1990: 34-35)。一方、1世のカドリーユは一週間遅れの8月7日、フォルクスガルテンでの「夏祭」で初演された(SCHÖNHERR 1954: 271)。オペラの初演直後に2世が作品を発表できたことは、メケッティ社のヴォーカル・スコアが入手できたおかげと考えられる。

ピアノ譜の出版においては、父が息子を制した形になった。1世による op. 191 は初演前日の8月6日付 *Wiener Zeitung* 紙上にハスリンガー社による広告(Anzeige No. 1930)が掲載された(WEINMANN 1956: 34)。ミュラー社による2世の op. 24 の広告が同紙に掲載されたのは、1月後の9月5日(第245号)であった(WEINMANN 1956: 69)。楽譜の販売は収入に直結するものであったことを考えると、1世ならびに彼の出版社の戦略がより狡猾であったことがわかる。

### 3 〈ジブシー娘のカドリーユ〉の様式

シュトラウス父子の〈ジブシー娘のカドリーユ〉は、2/4 または 6/8 拍子の6つの楽曲から構成される<sup>10)</sup>。各楽曲は8小節のフレーズを3ないし4つ組み合わせて構成されており、ダ・カーポもしくはダル・セーニョを有する三部形式に従う<sup>11)</sup>。父子の様式を比較した場合、第1曲において1世がABCの3フレーズ、2世がAフレーズだけを反復する点に違いがあるものの、顕著な構成上の差異は認められない。ただし、19世紀の舞曲では演奏において反復箇所と回数を操作し、曲の持続時間を調整したことを忘れてはならない。

各モチーフの出典を図1に一覧した<sup>12)</sup>。両作品の全モチーフがオペラからの引用であることがわかる。しかも、フレーズ全体がオペラから引用されていることが多く、接続の必要性がある場合にもオペラを切り張りする手法がとられる。端的に言えば、父子の作品はオペラのパッチワークなのである。明らかな変形と指摘できるのは、1世の第1曲Aフレーズのみである。ここでは付点8分音符+16分音符のリズムが逆の形にされている。しかし、現段階ではこれが意図的な変更かどうかは判断できない。

両作品に共通するオペラ・モチーフは合計6に及ぶ。Mailerは「事実上、息子が快活な作品で父に勝った」(MAILER 1999: 361)と述べているが、優劣を決定づける明確な根拠は見当たらない。確かに、2世の冒頭モチーフは力強く、印象的であるが、それだけでは証拠に乏しいであろう。全体の色調という点では、2世が快活な長調のモチーフのみを引用しているのに対し、1世は第3曲に短調を取り入れたり、穏やかなモチーフを組み合わせるなどして、曲調に変化を付けている。また、両者とも声楽部分のみならず、オーケストラによる伴奏部分からも引用を行っている。

図1 ヨハン・シュトラウス父子による〈ジプシー娘のカドリーユ〉の引用出典一覧

	Balfe's Zigeunerin (The Bohemian Girl)	Zigeunerin- Quadrilles	第1曲			第2曲		第3曲			第4曲		第5曲			第6曲	
			Pantalón (A, C)	Pantalón (B)	Pantalón (D)	Été (A)	Été (B)	Poule (A, C)	Poule (B)	Poule (D)	Trénis (A)	Trénis (B)	Pastourelle (A)	Pastourelle (B, D)	Pastourelle (C)	Finale (A)	Finale (B)
Akt 1 No.3	Chor: Wir Zigeuner leben froh (In the gipsy's life)						S 15 [G]-				V 23 [D]-	V 15 [G]-					
No.5	Arie: Ist nicht Hilfe bei der Hand (Is no succour near at hand?)							V 13 [b]-	V 21 [C] D								
No.6	Finale des 1. Aktes (Finale to Act 1): Galop		S 127 [C]-	S 143 [C]-	S 175 [F]-												
Akt 2 No.7	Chor: Stille, stille, der Mond (Introduction)															S 9 [D]-	
No.9	Duett: Ihr Vaterhaus ist nur mir bekannt (The wound upon thine thine arm)												V 156 [B]-	V 117 [B]-	V 125 [B]-		
No.10	Chor: Möget ihr froh und glücklich sein (Listen while I relate the hope of gipsy's)							S 51 [Es]-	S 61 [B]-								
No.11	Duett: Das ist dein Werk (This is the deed)					S 34 [E] D											
No.12	Romanze mit Chor: Folgt der Zigeunerbraut (In the gipsy's life)									V/S 10 [As] G/-							
No.14	Chor und Quartett: Aus balsamische Thal (Life itself at the best one scene)		V 1 [A]-	V 17 [A]-	V 33 [D]-								S 220 [F]-	S 204 [F]-	S 1 [A] F	V 204 [F] G	V/S 116 [D] C/-
No.16	Cavatine: Das Herz von Kummer tief gebaut (The heart bowd down)					V 17 [F]-	V 7 [F]-					V 7 [F] G					
Akt 3 No.19	Cavatine: Schwärmt anderer Herz (When other lips and other hearts)										S 10 [Des] D						

#1: SEV (1990: 34-35)に示された出典はメケッティ社による楽譜のナンバーに準拠する。そのため図1の楽曲表記はメケッティ社による独語表記を最初に記し、括弧内に該当する英語のインチピットを補った。ナンバーの分割はメケッティ社『1847年出版目録』のリプリント(WEINMANN 1966: 111, 付録: Katalog 1847: 3)による。

#2: 〈Zigeunerin-Quadrille〉の各楽曲内のアルファベット表記(A-D)は8小節のフレーズを示す。

#3: V = Strauss1世, S = Strauss2世の略号; 中段の数字は引用開始の小節数(各ナンバーの冒頭からカウント); 下段は調性。[ ] = オペラの調性。その後に各カドリーユの調性を記す。ただし、オペラと同じ調性のものは-(ハイフン)で表記; 表中の網かけは、同一モチーフを用いている箇所を示す。カドリーユの同じ箇所でも同じモチーフを引用している場合には一箇所のみ網掛けしてある。カドリーユの別の箇所でも同じモチーフを引用している場合には、1世と2世のそれぞれの引用箇所をオペラ・ナンバーの欄(横の欄)に同じ種類の網掛けで示した。同一モチーフを引用している場合には、中段の「引用開始の小節数」が同じ数字となる。(作成: 鍵山 2005年10月)

#### 4 結び

当時の立場を考えた場合、宮廷舞踏会監督として頂点にあった1世の陰で、2世は必死に仕事と名声を探していた。「[2世は]オペラのモチーフを並置したカドリーユの作曲に心血を注いだ。それは、劇場での初演の成功を、時を同じくして、演奏会場や市民がクラヴィーアを弾くサロンでさらに伝え広める効果を挙げた。そして、その際、できるだけ速く仕事をするのが、競争相手、とりわけ父に先んずることであった」(SEV 1990: 34)。

〈ジプシー娘のカドリーユ〉においては、ヴォーカル・スコアがオペラ初演のかなり前に出版されたという特殊な事情も加わり、作品の初演という点では息子が父の先に立った。

1週間遅れで作品を公表した父の作品に、息子とのモチーフの重複が多いという事実は、2世作品を知っていたか否かに関わらず、父の方では息子との対決を気にかけていなかったと考えられる。客観的に作品を眺めた場合、両者がいかに対立していたとしても、様式的には共通点が多い。両者のカドリーユの様式については更なる研究が必要である。

#### [註]

- 1) 台本は Alfred Bunn によるが、物語は Joseph Mazillier と J.H.Vernoy de Saint-Georges によるバレエ・パントミーム *La Gipsy* (1839年1月28日パリ・オペラ座初演)の翻案。その原作は Miguel de Cervantes による *Novelas Ejemplares* (1613)の中の *La gitanilla* にまで遡る。
- 2) この楽曲は1845年1月19日王宮の舞踏会場で初演。
- 3) この楽曲は1845年11月9日プラーターのヴァーグナー・カフェで初演。
- 4) Bauer も台本 Lyser と記述している (BAUER 1955: 112)。SEV1990 には両者の名前が並記されている。Tyldesley は Lyser の台本に対して懐疑的な見解を述べている (TYLDESLEY 2003: 109)。
- 5) Österreichische Nationalbibliothek: 60514-D. 30. 1 Alt Mag.
- 6) ポスターによれば、主役は Staudigl と Treffz であり、初演時とは Arline 役が異なる。
- 7) メケッティ社の楽譜を1850年発行とする Tyldesley は誤りである (TYLDESLEY 2003: 92)。
- 8) メケッティ社の『1847年出版目録』ではドイツ語の詞が Staudigl によることが明記されている (WEINMANN 1966: 付録 *Katalog 1847* のリプリント: 3)。しかし、1847年に新たな版が作られた形跡は認められないことから、以前の楽譜も彼の詞が使用されたと考えられる。
- 9) Loewenberg は1846年の初演時に Lyser の詞が使われ、1849年10月1日の上演の際に Staudigl と Proch の詞を使用と記述 (LOEWENBERG 1978: 834)。ウィーン国立図書館所蔵のオペラ手稿総譜 (mss.OA238 (1-3)) はパルプの自筆譜ではないが、自筆の書き込

みを多く含む。この楽譜に“Archiv Des K.K.Hof Opera Theaters”の印があることから、Tyldesley は同楽譜を 1849 年の上演用と断じている (TYLDESLEY 2003: 91)。1849 年の上演に同楽譜が使用されたのは明白だが、これがそれ以前の上演に使用されなかったことを立証する証拠はどこにもない。

- 10) 両作品とも第 3 曲のみが 6/8 拍子であり、他の楽曲は 2/4 拍子による。分析に際してバルフのオペラは BALFE 1882 のヴォーカル・スコアを使用した。この楽譜はナンバーに分割されていない。シュトラウス父子の楽曲についてはピアノ初版譜の復刻版 (HILMAR 1987, 1991) を使用。2 世作品の自筆譜および初期オーケストラ譜は、末弟エドゥアルトが焼却したため、現存しない。
- 11) 本論では 8 小節の各フレーズをアルファベット (A, B, C, D) で示した。1 世の第 3~5 曲、2 世の第 3 曲と第 4 曲に 1~2 小節の序奏が付く。
- 12) *SEV*では第 6 曲 A フレーズの出典を序曲の第 2 主題としている (*SEV*1990: 35)。しかし、これは第 2 幕第 1 場 (メクティ刊楽譜の第 14 曲) によるものである。バルフはオペラのウィーン上演に際して新しい序曲を作曲した。このモチーフは新序曲で使われたが、内部構造からみて出典は明らかにオペラ内のオーケストラの旋律に由来する。

#### [分析使用楽譜]

BALFE, Michael William

1882 *The Bohemian Girl*. SULLIVAN, Arthur; PITTMAN, J.(eds.). London: Boosey.

HILMAR, Ernst (ed.)

1987 *Strauss, Johann (Vater): Sämtliche Werke in Wiedergabe der Originaldrucke*. Bd.5. Tutzing: Hans Schneider.

1991 *Strauss, Johann (Sohn): Sämtliche Werke in Wiedergabe der Originaldrucke*. Bd.2. Tutzing: Hans Schneider.

#### [参考文献]

BAUER, Anton

1955 *Opern und Operetten in Wien*. Graz: Köln: Herman Böhlaus nachf..

BURTON, Nigel; HALLIGAN, Ian D.

2001 “Balfe, Michael William”. in SAIDIE, Stanley (ed.) *The New Grove Dictionary of Music and Musicians*. 2<sup>nd</sup> ed. 29 vols. London: Macmillan. Vol.2: 534-538.

FRANK, Gustav Ritter von (ed.)

1845 *Wiener Zeitschrift für Kunst, Literatur, Theater und Mode*. Wien. Österreichische Nationalbibliothek: 60514-D.30.1 Alt Mag.

HÖSLINGER, Clemens

- 1980 *Musik-Index zur "Wiener Zeitschrift für Kunst, Literatur, Theater und Mode", 1816-1848.* München; Salzburg: Musikverlag Emil Katznbichler.

LOEWENBERG, Alfred

- 1978 *Annals of Opera 1597-1940.* 3<sup>rd</sup> ed. Totowa, New Jersey: Rowman and Littlefield.

MAILER, Franz

- 1999 *Johann Strauß. Kommentiertes Werkverzeichnis.* Wien: Pichler.

SCHÖNHERR, Max; REINÖHL, Karl

- 1954 *Johann Strauss Vater.* London; Wien; Zürich: Universal Edition.

TYLDESLEY, William

- 2003 *Michael William Balfe. His Life and His English Operas.* Aldershot, Burlington: Ashgate.

WALSH, Basil

- Michael W. Balfe: Composer of "*The Bohemian Girl*" and other operas  
(<http://www.britishandirishworld.com/>), 2005年8月19日アクセス

WEINMANN, Alexander

- 1956 *Verzeichnis sämtlicher Werke von Johann Strauß Vater und Sohn.* Wien: Musikverlag Ludwig Krenn.

- 1966 *Pietro Mechetti qm Carlo: Verlags-Katalog.* Wien: Universal Edition.

WIENER INSTITUT FÜR STRAUSS-FORSCHUNG (ed.)

- 1990 *Strauß-Elementar-Verzeichnis. [= SEV と略] Bd.1.* Tutzing: Hans Schneider.

かぎやま ゆみ

国立音楽大学卒業、お茶の水女子大学大学院修了。専門は18～19世紀のウィーン音楽。主要論文『ヴァーゲンザイルの序曲と交響曲』のほか、『ベートーヴェン大全集』（音楽之友社）、『ヴィヴァルディ全集』（ユニバーサルミュージック）、『新編音楽中辞典』（音楽之友社）、『キリスト教辞典』（岩波書店）などの執筆を手がける。埼玉学園大学、東京成徳大学・同短期大学講師。日本ヨハン・シュトラウス協会理事。